



まずは、開倫塾ニュース2009.8月号の巻頭言をもう一度ゆっくりお読み下さい。

この夏休みには「新聞を読む習慣」を身に付けよう

- 小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を毎日読んで考えよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：なぜ塾長は「この夏休みには新聞を読む習慣を身に付けよう」と言うのですか。

A：(林明夫。以下省略)夏休みは時間がたっぷりありますから、普段はなかなかできないことにじっくり取り組むよいチャンスだからです。

皆様にもいろいろやりたいことがあるでしょうが、私が一番おすすめしたいものの一つが「新聞を読んで考える」ことです。

Q：新聞を読んで何を考えるのですか。

A：皆様は、新聞を最初のページから最後のページまですべてゆっくりと読んだことがありますか。家でとっている新聞を、一度、何時間かかけて、スミからスミまでゆっくりとなめるように読んでみることをおすすめします。(家で新聞をとっていない人は、学校の図書室や図書館に行って読んで下さいね。)

何回か、新聞を一面から最後のページまでゆっくりとなめるように時間をかけて読んでみると、新聞にはどのようなことが書かれているかが少しずつわかってきます。

何が書かれているかがわかってくると、世界のことやアジアのこと、日本のことや地域のこと、身のまわりで起こっていることが新聞を通して少しずつわかってきます。世の中でどのようなことが起こっているのかが少しずつわかってきます。

世の中で起こっている様々なことのうち、その新聞社がこれは読者の皆様に伝えなければならないと選び選び抜いたものが新聞であると言えます。

たとえば、この6月は、「足利事件」が大きく報じられました。殺人事件の犯人とされて有罪の判決が下り、刑務所に入れられていた菅家さんという方の無罪が証明されたために、釈放された事件です。どの新聞にも一面と社会面で大きく報じられました。

なぜ警察は菅家さんを犯人として逮捕してしまったのだろう。なぜ菅家さんは自白をしてしまったのだろう。なぜ検察官は菅家さんを犯人として起訴してしまったのだろう。なぜ証拠の鑑定をした人は菅家さんに不利な鑑定をしてしまったのだろう。なぜ裁判官は有罪の判決を何回も下してしまったのだろう。

各新聞社の記者の方々は、一体何がどうして起きてしまったのかを、文字通り夜を徹して取材し、気の遠くなるような膨大な情報を手に入れてから記事を書き、編集長の編集を経て、読者の皆様に伝えて下さっています。

この「足利事件」の記事が出ている新聞を読んで私たちが何を考えるべきかといえば、たくさんあります。たとえば、真犯人をどうしたら時効成立前に逮捕できるか、児童殺人事件をどうしたらなくせるかは、皆で考えなければならない問題です。

無実の人を逮捕、起訴、有罪にしないためにはどうしたらよいかも考えなければならない大きなテーマです。

自分がやっていないことで逮捕、起訴され、裁判にかけられたらどうするか。有罪判決を受けてしまったらどうするか。これは、自分のこととして考えなければならない大きな問題です。

Q：なんだか大変なことになってきましたね。新聞を読んで考えると、どのような能力が身につくのですか。

A：「批判的思考能力」が身に付くと私は考えます。世の中や、自分の目の前で起こっていることが果して正しいことなのかどうか、もしかしたらおかしいのではないかと、間違っているのではないかと自分で考える力が身に付きます。

自分の行動には自分で責任を持たなければならないことを、「自己責任」と言います。新聞を読んで考えることにより「批判的思考能力」を身に付けることは、「自己責任」の前提条件と言えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：新聞を読むと世の中のことがわかりますから、将来どのような仕事に就けばよいかを考えるときにも役に立ちます。何のために勉強するのか、何のために進学するのか、進学したところで何を学んだらよいかは少しずつわかってきますよ。

新聞のスポーツや科学、読書、料理、文学、将棋、囲碁、健康のページは最高です。投書や意見、人生相談のページも面白いことこの上なしです。

部活動やクラブ活動で自分でやっているスポーツ、やったことのあるスポーツ、興味のあるスポーツの新聞記事は、毎朝、必ず読むことをお勧めします。野球部に所属している人は、毎朝、野球の記事はすべて読む。サッカーの好きな人は、サッカーの記事はすべて読む。バレーボールをやっている人はバレーボールの、バスケットボールをしている人はバスケットボールの、テニスをしている人はテニスの新聞記事を、毎日、すべて読む。これぞという記事は、保護者の許可を得てからすべて切り抜き、スクラップブックにのりで貼り付けておき、何回も、何回もお気に入りの記事を読むと、そのスポーツのことがよくわかり、そのスポーツが好きになります。高校野球や大学野球、社会人野球で活躍している選手で、野球の新聞記事を毎日読み続けている人はたくさんいますよ。

芸術活動も同じです。絵画、彫刻、演劇、演奏、舞踊など、興味のあるジャンルの新聞記事は毎日読むようにしましょう。

行ってみたい国や場所の記事もどんどん読み、どんどん切り抜いてみましょう。

この夏休みには、新聞に親しんで下さいね。新聞を読んで考える能力は、自分自身で生き抜く力をつける上で、一生役に立ちますよ。

- 2009年6月15日記 -

巻頭言で十分御説明できなかつたことを、次にお伝えいたします。

Q：学力を身に付けるのに新聞を毎日読むことは役に立つと塾長は考えますか。

A：(1)何をもって学力というかはいろいろ議論があると思いますが、「学校の定期テストでよい点が取れる」、「進学を希望する自分にとっての一流校の入試で合格点が取れる」という意味での学力なら、新聞を毎日読み続けることは、学力を身に付けるのに役に立つと言えます。

なぜなら、新聞を読んで考える力が身に付いてくると、学校で学んだことがどのように役に立つかがよくわかるので、勉強する意味がわかるからです。また、短い試験の時間中に、大量の文章を読まなければならないことが試験には多く、新聞を毎日考えながら読み続けていると、難しく長いテストの文章を自分の力で「理解」する力が身に付きます。記述式・論文式の試験では、自分の考え方を理由・根拠を示しながら論理的に述べるのが求められることが多いですが、新聞を読んでいつもなぜこのようなことが起こるのだろうと考え続けていると、論理的思考能力が身に付き、根拠や理由を示しながら自分の意見・考えを述べるできるようになります。

(2)入学試験や就職試験では、多くの学校や企業、役所で面接試験が課せられますが、最近の社会の出来事について、事実に基づいて自分の意見・考えをわかりやすく、論理的に述べるときには、新聞を毎日読み続けているとしないのでは、試験官の印象が全く異なります。身近な問題も含め、社会で起こっている事柄について全く関心がない、関心はあってもほとんどその内容を知らないようでは、果してこの学校に進学して十分な勉強ができるか、果してこの会社や役所に就職して現代の抱える問題をふまえて十分な仕事ができるかが試験官は心配になります。新聞を読んでいない人よりは、新聞を毎日たんねんに読み考える人のほうを合格させるのは、当然と言えます。

(3)開倫塾の教育目標の2番目に出てくる「高い倫理」とは何か。高い志を持って相手のことを思いやる。また、よい意味での習慣や国会で決めた法律をよく守る、つまり社会のルール の範囲内でよく自身を律しながら行動する、「自律的に活動する能力」も「学力」であると考えます。このような意味で、新聞は「自律的に活動する能力」を身に付けるのに大いに役立ちます。

なぜなら、新聞の記事の中には、皆に希望を与え、人々を元気づける社会にとって明るい出来事とともに、人間として、社会人としてやってはいけないこと、法律に違反することが、厳しい記者の眼で描かれているからです。新聞を毎日たんねんに読むことにより、人間としてしてよいこと、してはいけないことを具体的に学ぶことができます。

小学校や中学校、高校で学ぶ皆様の中には、コンビニエンスストアで万引きをしたり、他人の自転車に無断で乗ることは悪いことだと思っていない人もいるようですが、それらの行為は刑法で刑罰をもって罰せられる窃盗罪という「犯罪」そのものです。友人のお金や物を奪い取るのは「強盗罪」です。学校の友人にたとえ少額でもお金や物を強要することは、「強要罪」という犯罪です。友人や学校や公園などの物を壊すことは、「器物損壊罪」という犯罪です。何人かで一人を取り囲み、その輪の中から外に出さないのは、「監禁罪」という犯罪です。メールを用いて友人を脅すことは「脅迫罪」、友人を殴りケガをさせることは「暴行罪」や「傷害罪」として罰せられます。友人の学生証を使って人をだましお金や物を手に入れるのは、「詐欺罪」にあたります。

やってよいかどうかよく考えてみようなどという問題ではなく、犯罪として国家権力(警察や検察、裁判所)が刑罰を課すに値する行為として「刑法」という法律で禁じられている行為ですから、決して行ってはなりません。人を殺せば、「殺人罪」として死刑、無期、3年以上の懲役という刑罰をもって処罰されます。

新聞を読むと、毎日のように犯罪の報道があります。目の前に起こっていることが犯罪であると考えれば、できるだけ被害者にならないようにすること、自分がしようとしていることが犯罪であるなら、自分自身を律して、つまりコントロールして決してそうしないこと。新聞をよく読んでいれば、オレオレ詐欺や振り込め詐欺に巻き込まれないことが多いと私は考えます。

Q：塾長は、いくつぐらいから新聞を読むようになったのですか。

A：足利市立山辺小学校の3～4年生のクラス担任の岡典子先生が、新聞を読むといいよと教えて下さって以来読むようになりました。

高校生になると足利高校の図書館に英字新聞がありましたので、天気予報やTV・ラジオ欄、スポーツ欄などを一日に何分か読んでいました。慶應義塾大学の図書館の地下には、日本中の新聞、世界の新聞が取りそろえてあったので、嬉しくなり、時間があると新聞コーナーに行っていました。

年に何回か外国に行く機会があります。その時には、英語の新聞は少しは読めるので、その国の新聞で英語で書かれているものをできるだけ読むようにしています。短い滞在でも、新聞を読むとその国のことが少しずつわかってきますので、よい勉強になります。

私の友人に馬里邑(まりむら)れい先生というプロの作家の先生がいらっしゃいます。馬里邑先生は、学生時代にいろいろな新聞社や雑誌社の懸賞に応募し続けて、文章を磨いたそうです。作家になりたい人は、自

分の作品を新聞に応募するのも素晴らしい修行となりますね。

意見がある人は、新聞の投書欄に投稿(とうこう)することをお勧めします。よい意見はいつかきっと編集者の目にとまるものと思います。(投稿するときは、同じ原稿をいくつもの新聞社に提出しないこと。これはマナー違反です。原稿は返却されませんので、原稿のコピーは必ず自分の手元に置いておくことも大切です。)

Q：夏休みに新聞を読むときのアドバイスをお願いします。

A：新聞は家族全員で読むものですので、一人占めをしてはなりません。私のアドバイスは、昨日の新聞で家族全員が読み終わり、また、不要になったものを保護者にお頼みして勉強用にプレゼントしてもらうことです。

新聞は、何も配達されたその日にすべて読まなければならないものではありません。夏休みには、何日か前の新聞を、誰に気兼ねなく、スミからスミまで時間をかけてじっくりと読むことをお勧めします。保護者の許可を得た上で、何日か前の新聞を徹底的に読み込むことです。

興味のあるテーマは、保護者の許可を得た上で、日付を記して切り抜き、まとめておくこともお勧めします。大切と思われるところには、マークをすること。よい記事だなと思ったら、声を出して読むこと。新聞記事を音読することもよい勉強になります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：ちょうど10年前にも、「開倫塾ニュース7月号」の巻頭言で、私は「夏休みには、1日1時間新聞を読もう」という文章を書かせていただきましたので、是非お読み下さい。

新聞についての文章のあとに、受験生の夏休みの過ごし方の秘訣を書き記した文章をいくつか掲載いたしましたので、お読み下さい。同じような内容で恐縮ですが、自分の希望する学校(これを開倫塾では一人ひとりの「一流校」と呼びます)に合格するためにはどうしたらよいかを、具体的に述べさせていただきました。「私立中学校受験生」、「中高一貫公立校受験生」、「高校入試受験生」、「大学入試受験生」が、自分にとっての「一流校」に合格するために夏休みをどう過ごしたらよいかを、できるだけ詳しく述べたものですので、必ずお役に立つと確信いたします。

「学力」を身に付けるには、「学び方を学ぶ能力」こそが欠かせません。「受験生としての夏休みの学び方」を身に付けていただくために、お役に立てば幸いです。

では、がんばって下さいね。

- 2009年6月21日記 -

新聞を読み考えることの重要性について述べた開倫塾ニュース1999年7月号の内容です。

夏休みには、1日1時間新聞を読もう

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)2000年まではもう5か月。世界も日本も、どんどん変化し続けています。世の中がどのように変わっていくのか、どんどん変化していく世界や日本の中で、自分自身としてはどのように生きていけばよいのか。

世界や日本の変化を見ながら、自分自身の生き方を考える「ヒント」になるものはいろいろあります。

(2) その有力な手段として、「新聞」があります。

ほとんどの家で、新聞を購読していると思われるので、今回は「効果の上がる新聞の読み方」を考えます。

2. 夏休みには、1日1時間新聞を読もう

(1) 今まで TV 番組やスポーツについてのページとマンガしか新聞に触れなかった人も、今年の夏休みは最初のページである「一面」からていねいに1ページずつ、読めるところまででよいですから、1時間の時間をかけて新聞を読み進めることをお勧めします。

(2) 「一面」には、その新聞社が、世の中で起こっている出来事のうち、読者に知らせるべき内容で今一番大切であると判断したものが掲載されています。「一面」の下の方にある「コラム」は、その新聞社で最も筆の立つ記者を経験した「論説委員」の人たちが、何人かで執筆しています。

(3) 「一面」の左側には、その新聞社で現在最も取り上げたい問題が、シリーズものの「特集」の形で取り上げられています。

(4) ページを少しめくると、大事な問題についてのその新聞社の考え方を示す「社説」があります。新聞社に入ってくる世界中、日本中の情報をまとめ上げ、世界や日本の問題の中で新聞社として「きっちり」意見を述べる必要がある問題について、何人もの論説委員の議論を踏まえて新聞社の意見として書き上げられるのが「社説」です。新聞は何のために読むかという問いに、「社説」を読むためだと答える人がいるのも、そのためです。

(5) 「政治」や「経済」、「社会」のページの他に「国際」のページもあります。塾生の皆様は、是非「国際」のページにたんねんに目を通して、世界ではどのようなことが起こっているのか、その基本的なことを理解して下さい。「国際」のページは、「地図帳」をたえずそばに置いて、地名や位置を確かめながら読むと興味も増します。

(6) 少し勉強の進んだ人は、お金をためて「週刊の英字新聞」や「日刊の英字新聞」を家で購読することを「心から」お勧めします。早めに「英検準2級」や「2級」を取得し、日本語の新聞を1日1時間読んで内容がよくわかったら、英字新聞を1日1時間読むことを、高校生や大学生になったら実行することも「心から」お勧めします。

3. おわりに

(1) ただし、新聞を読むことは大切ですが、新聞に書いてあることが世の中で起こっているすべてではないことを知ることも大切です。新聞やジャーナリズムの任務は、「問題点とその原因を徹底的に明らかにすること」にあります。ですから、問題になっていないこと、このままでもOKなことは新聞には取り上げられません。

(2) 世の中で行われていることや起こっていることの大部分は新聞には取り上げられないこと、問題にすべきと新聞社が考えることのみ新聞には取り上げられていることを理解することもお忘れなく。

(3) それでは、がんばって1日に1時間、夏休み中新聞を読んでみましょう。がんばって。

<特集・受験生の夏休みの効果的な過ごし方>

夏休みを控えた受験生としてどうしたらよいかについて述べた塾長の文章をまとめてみました。まずは、開倫塾ニュース 1996 年 7 月号の内容をお読み下さい。

夏休みは入試の天王山

- 部活動が終了したら、1日も早く受験生になり切ろう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

1 学期期末テストの結果はどうでしたか。6 月初旬から 1 か月かけて準備をした方は、限りなく 100 点に近い点数が多く科目で取れ、試験直前になってから「ドロでなわをなうような、ドロナワ」勉強しかなかった方は、満足な点数が取れなかったことと思います。努力をした人が報われる、これが学校での勉強ですので、仕方のないことだと考えます。

12 月中旬に迫った高校入試も全く同様で、努力をした人が報われ、怠けた人が報われないこととなります。そこで、今回は、12 月中旬の高校入試で希望校に合格を果たすために、どのような努力をすべきかを考えます。

2. 1日も早く受験生になり切ろう

(1) 私立学業特待試験が 12 月中旬に行われ、毎年大半の中 3 生が受験いたしますので、開倫塾の塾生諸君にとって入試は 12 月中旬と考えるべきかと思えます。つまり、入試まであと 5 か月、150 日しかないことを、中 3 生は明確に認識すべきと考えます。

高校入試は 3 月中旬だから、ゆっくりやればいいやと考えていると、私立学業特待入試で希望高校に合格できず、その結果、1 月中旬の私立単願入試を受験するよう学校から指導を受ける場合が多いようです。すでに、各私立高では 12 月の学業特待と 1 月中旬の単願入試で入学者の大半を確保しているため、1 月下旬の私立併願入試は困難を極めほんの少ししか合格者を出さないからです。何が何でも 12 月中旬の私立高校の学業特待試験で希望校の合格を果たさねばなりません。

(2) そのためには、1 日も早く受験生になり切ることが大切です。

地区大会が終了したら、県大会に行く方は別として、翌日から「私は受験生である」と自分自身に言い聞かせて、受験生になり切ることです。

(3) 「受験生」とは何か。生活の大半を受験勉強に費やす人を言います。朝起きて夜寝るまで、1 日中勉強し続ける人を「受験生」と言います。

そんな大変なことはできっこないやと、はじめからあきらめることはありません。工夫次第で、誰でも「受験生」になり切れます。また、「受験勉強」は面白くないなどと、はじめから決めてかかっているはいけません。高校入試に出るような内容は、中学卒業生つまり義務教育を修了した人が誰でも最低身に付けなければならない「基本」ばかりですので、勉強すればするほど面白く、また、高校に入学したあとだけでなく世の中に出てからもためになります。

(4)1 科目でもよい点が取れるようになると内容のすべてがよくわかるようになり、その結果勉強が楽しくなり、もっともっとその科目を勉強したくなります。勉強すればするほど頭がさえわたり、記憶する力や理解する力もぐんぐんついてきます。

(5)小学校・中学校で足りなかった知識を高校入試の勉強を通して身に付けるという点でも、受験勉強は意味があります。是非、積極的に取り組んで下さい。

3. おわりに

受験勉強に頭のよい・悪いは一切関係がありません。1日も早く「受験生」になり切り、「体力と気力」を充実させて勉強をしたかしないかで勝負は決まります。

開倫塾では、全職員が全力を傾けて、受験生の皆さんすべてが希望校に合格できるよう指導いたします。つらいのは皆同じです。歯をくいしばって、がんばっていきましょう。

受験生の夏休みの過ごし方について述べた開倫塾ニュース 1989年7月号の内容です。

知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ

- 受験生の夏休みの過ごし方 -

開倫塾

塾長 林 明夫

夏休みは入試の天王山。この夏をいかに過ごすかで、来春の合否が決まるといっても過言ではありません。そこで、今回は、効果の上がる夏休みの過ごし方について考えてみましょう。

1. 目標を明確にしよう

何事も目標が大切です。明らかな目標のもとに行動するのと、ただ何となく時間を過ごすのでは、その結果が全く異なります。何を目標として夏休みを過ごすのかを、まず明確に決めて下さい。

開倫塾の塾生の皆さんは非常に優秀ですので、将来必ず職場や地域社会のリーダーになるものと信じます。家庭でもそうですが、人々が行動する場合には、一定の目標の下に行動したほうがその行動に活力が生まれ、各自が生き生きとした自己実現ができます。どのような目標を設定するかも問題となりますが、塾生の皆さんは目標を持って一つ一つの行動をする「クセ」を今のうちから身に付け、充実した人生を送っていただきたいと思います。目標が決まれば、そのためにどうしたらよいかという「手法」「手段」は、おのずと決まってきます。

2. 夏休みまでに何をすべきか

「夏休みになったら勉強すればよい」と考えていたら、大間違いです。夏休みまでに、今日から何をどうしたらよいか考えてみて下さい。期末試験が終了して、頭がかなり勉強中心になってきたと思われるので、そのまま一定の科目にしぼり込んで勉強を継続することも効果的です。「夏休みまでに1科目終わらせてやろう」でもよいし、「1科目中の1分野だけでもいいから終わらせてやろう」でもよいのです。一番よいのは、各科目とも1学期の勉強のうちやり残したものを集中的に終了させることです。とりわけ、期末試験で十分勉強できなかったところに的をしぼり込んで、集中学習して下さい。一度勉強したところなので、今度は以前やったよりはよくわかると思います。

持病があったら早目に治療を受けて下さい。メガネの必要な人は眼科に相談に行くこと。虫歯のある人は夏休みまでに治療してもらうこと。受験生としてあたりまえのことです。

3．夏期講習までに何をすべきか

開倫塾の夏期講習は、中3生は7月22日からスタートします。なるべく早目に、学校の宿題や課題を終了させて下さい。プールに何回か行かねばならない人は、午前中にプールに行って体を鍛えて下さい。部活動は夏休みが始まるまでに十分やって下さい。やりたいことや学校で与えられた宿題・課題は、夏休みが始まってから数日のうちに終了させるのがポイントです。できたら、夏期講習のテキストの予習を各科目とも数回分終わらせて下さい。

4．夏期講習中はどのように過ごすべきか

「7月22日から自分は受験生になる」と自分自身に言いかせて下さい。自分の行きたい高校が各自の「一流校」です。「一流校に入る」という夢を実現するために、効率的に時間を使いましょう。

午前中と夜は、講習のテキストの予習と復習に専念して下さい。朝は何時から何時までやるのが適切か、夜はどうかなどということは人によって異なりますから、自分で自分の根気と学力とに相談しながら決めて下さい。誰も強制することはできません。自分で決め、自分の責任で実施すべきです。

5．お盆中はどのように過ごすべきか

「自分は受験生だ」と自覚すれば、お盆中であろうと机に向かうべきことは当然です。夏期講習のテキストのやり残した問題やよく理解できなかったところ、間違った問題をもう一度やり直すことが最も効果的です。家族みんなが親せきまわりや旅行に出掛けている間、家で一人で机に向かう姿は美しいものです。誰もいない家の中で、一日でもよいから朝から晩まで勉強をしてみてください。勉強というものは意外と面白いものだということが実感できます。

8月7日(金)には、一息入れてもらうために東京ディズニーランドにJRの「伊豆の踊子号」で行きます。

よい気分転換になると思いますので、希望者はどうぞ。

6．8月後半の1週間は、8月分授業に出席して下さい

8月分授業は、夏期講習のパートだと考えて下さい。期間中は、授業の予習、復習を十分して下さい。夏期講習もそうですが、開倫塾のカリキュラムは、懐石料理と同じように絶妙のタイミングでいろいろな内容(料理)が出てくることで、教育関係者から高い評価をいただいております。夏休みの後半の学習内容はこれしかないというものが、用意されています。十分味わって栄養をつけて下さい。それには、休まず出席することと、予習・復習が不可欠です。夏期講習と同様、8月分授業の間も他の勉強を入れず、開倫塾の授業に集中して下さい。

7．夏休み最後の1週間の過ごし方

学校の宿題・課題の残りや開倫塾の8月分授業でやり残した問題、間違った問題をもう一度やり直して下さい。友だちや親せきの家を訪れたり、小さな旅行に行くのも面白いと思います。勉強中心の夏休みを振り返りながら、夏の終わりの何日かを大切に過ごして下さい。

8．リフレッシュの仕方を身に付けよう

いくら受験生とはいえ、朝から晩まで夏休みの間中休みなく勉強していたのでは、学習内容が効率よく頭に入らないばかりか、記憶の痕跡も定着しません。何分かに一度は休みを入れると同時に、1日に何回かは身体を動かし運動をしましょう。同時に、日曜日は完全に休み、勉強のことは一切考えないことも大事です。遊ぶときには遊び、勉強するときには一所懸命勉強すること。どのようにリフレッシュするかは人によって異なります。早く自分なりのリフレッシュの仕方、疲れた場合の体調の整え方を身に付けて下さい。

精神と肉体の管理は自分自身で行う「クセ」を、もうそろそろ身に付けるべきです。イライラやストレスがたまらないようにするにはどうしたらよいか、自分で考えて下さい。「健康管理を自分で行えること」は、とても大事なことです。

9. 知恵あるものは知恵を出し、知恵なきものは汗を出せ

暑い夏ですが、どうか自分なりの目標を持ち全力を尽してもらいたい。勉強ができるとか、できないとかいうのは、頭がよい・悪いではなく、その分野をよくやったか・やらなかったかだけです。人間の能力は平等なものですから、不足している分野は歯をくいしばって「汗を出し」自分のものとして下さい。健闘を祈ります。

10月18日の実用英語検定2級・3級・4級受験希望者の皆さんは、開倫塾の英語科の先生の指導のもと7月10日すぎから勉強をスタートさせて下さい。遠慮は不要です。どんどん先の級まで挑戦して下さい。

受験生の夏休みの効果的な過ごし方について述べた月刊雑誌「みにむ」1993年7月号「開倫塾の時間」のページの内容です。

自分の未来を自分の力で切り開くために
- 受験生の夏休みの効果的な過ごし方 -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

1ドルが105円台になり、日本の貿易黒字が過去最高になったとはいえ、そんなことにはおかまいなく、受験生には暑い夏が来る。

「夏を制する者は受験を制する」「受験生にとって夏休みが最も大切」と、よく言われる。「アリとキリギリス」の話ではないが、冬に備え、夏の暑いうちから十分準備をした者が、あとになって成果が出る人が多いのは、受験勉強でも同じことだ。1年分のカレンダーを見れば、自分の入学したい学校の試験日はすぐにわかる（試験日は、毎年ほぼ同じなので）。入学試験の問題も、昔と違ってちょっとアンテナさえはりめぐらせば、すぐに手に入る。何点取れば合格するかも、大体はわかる。それを7月1日にやってみて、合格点に足りていれば「よかった」し、もし足りなければ不足している得点差を試験の日までにうめればよいこともわかり切っている。夏休みは、部活動も終わり、1日中勉強できる日が40日も続くので、「入学試験で最低取らなければならない点数と、現在の実力との差」をうめる絶好のチャンスであるという意味が、「夏を制する者は受験を制する」という格言にも似た表現となって現れる。

ただ、大部分の受験生は、入試の問題を合格最低レベルまで解ける力を身に付ける第一歩が夏休みであることに気付かず、ただ何となく貴重な時間を過ごしてしまう。これは、はっきり言ってあまりにももったいないことだ。なぜ、こうも毎年夏休みを無駄に過ごしてしまう受験生が多いかといえば、それは「自分自身の得点力と入試問題との差（ギャップ）」を正確に認識しないからだ。

2. では、どうしたらよいか。次のようにすればよい。

(1) 自分の受けたい学校を明確にすること。

現実には、自分の受けたい学校が明らかになっていない受験生が非常に多い。高校生になると、この段階になっても進学が就職が決まっていけない人も多い。食うや食わずから脱却して日本経済が世界で一番豊かになったため、半年先の自分の進路を深く考えなくても済むためかもしれない。進学することは決まっても、4年制大学か2年制の短大か、専門または専修学校が決まっていけない人も多い。「一体、自分は何

者なのか」から始まって、「自分はどのような人生を送りたいのか」「どのような職業に就きたいのか」、もっと具体的には「中学校や高校を出てから何をしたいのか」という自分の人生の根本についての問いを頭の芯が痛くなるくらい考え抜いている人は少ない。日本社会始まって以来の豊かさのためからか、保護者もかなり精神的・金銭的に“ゆとり”があり、子どもの好きな道を歩ませてあげたいと希望する人が多い。

相談はいろいろな人に十分した上で、最終的には「自分の進学先は自分で決める」ことをまず考えるべきと思う。

(2) 受けた学校の実際の入試問題2、3年分を、時間制限を守り、1学期の期末試験が終わった日にやってみる。正確に採点もしてみる。

受験生でありながら、ほとんどの人がこの作業をしていないことも現実の姿です。やることを思いつかないのか、現実の姿を見ることが怖いための理由はわかりませんが、「いつかどうにかなるだろう」「入試直前になって入試問題をやれば十分」と考える人が本当に多い。受験勉強は単に理想と現実(ギャップ)をうめるものにすぎませんから、本格的な勉強のスタートする夏休みに入る 2、3 週間前に、ギャップを明らかにしておかねばなりません。

(3) ギャップをうめるためには、何をどうしたらよいか徹底的に考える。

一番よいことは、中学校や高校や学習塾・予備校の各科目の担任の先生のところ、数年分の入試問題と採点済みの自分の解答用紙の二つをセットにして持っていき、試験日までのあと何か月と何日間に何をどのように勉強すればこの差が確実にうまるか、素直な気持ちで礼を尽くして聞くことです。各科目の担任の先生は、一応その科目のプロで自分の担当科目については入試の問題にも精通しているはずですから、受けた学校の 2、3 年分の入試問題と 7 月 1 週にやって自己採点した解答用紙を持っていけば、試験日までの勉強方法を具体的に考え、教えて下さるものと確信します。

自分で考えてもよいですが、自分はその学校の受験生としては 1 年目で初心者であることを忘れてはなりません。初心者が自分で考えると、「妄想」が出るだけで、「人類はじめての実験」となり失敗する確率が大です。自分の信頼している各科目の先生に自分のありのままの実力を見ていただき、試験日までの勉強方法についての指導を受けるのが一番です。

3. おわりに

(1) 以上述べた(1)~(3)ができれば、合格したも同然です。「自分の未来を自分の力で切り開く」ために、強い意志を持って机に向かえばよいだけです。ただ、どうしてもその気になれない人は、無理に受験勉強をすることはお勧めできません。「無理」にやったものは「イヤイヤ」ですから、いくら長い時間机に向かっても頭に「スーッ」と入らず、従って「得点力」にはならないからです。かえってイライラがたまって、心が不安定になるもです。ほかにやりたいことがあったら、気のすむだけやってから受験勉強をすればよいと思います。また、どうしても勉強になじめなければ、ほかの道を歩むことをお勧めします。

(2) ただ、高校入試や大学入試の問題は世の中に出て役立つことばかりですので、やっておいて損はありません。英語が読めて書けて聞けるようになり、現代の著名な文章からはじまり、論理的な思考能力を身に付けると同時に学べ、日本と世界の地理と歴史と政治、経済、社会、ひいては国際関係論の基礎までかなり正確に学ぶことができ、生物、地学、物理、化学の初歩をこれまたかなりキッチリと身に付けることができるのが、受験勉強でもあるからです。今まで中学校 3 年間、あるいは高校 3 年間にやってきたことで不確かであいまいであった知識を、テストで点が取れるレベルにまで身に付けるのが受験勉強であると言えます。

(3) その意味で、受験勉強を決して「被害者意識」ですることなく、「今までの勉強の総まとめをし、この

先、学びたい学校での勉強の準備をするために行うのだ」ととらえて下さい。受験勉強の中にも、是非積極的な意味を見出し、暑い夏を勉強一色で過ごしていただくことを希望します。一生に1～2度、思い切り勉強するのもよい思い出になります。友達と励まし合いながら、この夏、力をつけて下さい。ファイト！です。

効果の上がる勉強方法を確立するには手順を踏むということが大切であることを述べた月刊雑誌「みにむ」1994年7月号「開倫塾の時間」のページの内容です。

効果の上がる勉強方法を確立するための基礎知識

- 「手順を踏む」ということ -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 期末試験の結果はどうでしたか。100点満点に限りなく近いよい成績を取ることのできた方が、この開倫塾の塾生の中には数多く出たのではないかと思います。ただ、残念なことに十分な成績が取れなかった方もいると思います。
- (2) 学校の勉強ができる・できない、学校のテストで100点が取れる・取れない、このことに、頭がよいとかよくないとかは全く関係がありません。単に、勉強をよくやったか・よくやらなかったかだけです。よく勉強をやればよい点数が取れるし、よくやらなければよい点が取れない。よい点を取れば学校での評価が高まり、勉強ができると言われ、よい点が取れなければ学校での成績が上がらず、勉強ができると言われません。ただ、それだけのことであります。
- (3) そうは言っても、100点が取れ、学校での評価が高まり、勉強ができると言われるのはなかなか難しいと思われま。学生であるなら、おそらく誰もがテストで100点を取り、学校での成績を上げ、勉強ができると言われたのではないかと思いますので、今回は、テストで100点が取れ、勉強ができると言われるにはどうしたらよいかを考えてみたいと思います。
- (4) 「他人から何と思われようが全く気にしない」「勉強ができるなどと思われたくもない」と考える人も、「自分の教わったことや現在学ばなければならぬことを完全に身に付け、テストという形はとらなくても学んだことを100%自分のものとして使いこなすことが、テストで100点満点を取ることと同じだ」と考えてもらえば、これから私が述べることも参考にならないわけではないと思いますので、是非、最後までお読み下さい。あなたの人生の上で必ずためになります。

2. 「手順を踏む」ということ

- (1) ものごとをなしとげるときに何が一番大切かといえ、手順を踏む」ということであります。ある特定のひとつのものをなしとげるときには、そのこと特有の踏まなければならない「手順」というものがあります。
- (2) 自分でなしとげたいことがある場合に、それを達成するために試行錯誤をくり返し、グルグル同じところを回すことは、「根性」や「精神」を鍛えるためには必要であるという人もいます。また、一度失敗したら

「同じ誤ち」をしないように気をつけてもう一回挑戦し、違う失敗をしたら、これまた「同じ誤ち」をしないようにして更にもう一度やればいいのだ、「人生は失敗の連続」「失敗し続けてはじめて人間の弱味がわかり、人間くさくなり、人間性が増すものだ」「だから人生において失敗は必要なのだ」などと「失敗すること」をたたえる人さえいます。

(3)しかし、私はそうは思いません。どのようなことでも、人間が考えたことであるならば、必ずそこには一定の「やり方」つまり「踏むべき手順」というものがあると考えます。このようになれば、つまりこのような手順を踏めば、必ずこのようになるという「やり方」「手順」というものが存在すると確信をいたします。

(4)サッカーのチームに入り、ゴール・キーパーとしての役割を果たすにはそれなりの「やり方」「踏むべき手順」があります。「県大会で優勝」するための「やり方」「手順」というものがあります。

(5)私自身は、中学生のころ陸上部には入っていませんでしたが、毎年陸上の100m走と800mリレーで地区大会に出て入賞し、県大会に行っていました。入っていた柔道部では、地区大会の団体戦で優勝し、県大会でも優勝、個人戦でも県大会で準優勝させていただいた思い出がありますので、地区大会は地区大会のレベルに応じた、県大会は県大会のレベルに応じた勝つための「練習」があることはよく知っています。県大会終了後、何人かの選手が選ばれて、合宿をしながら県の体育館で栃木県警察本部の機動隊の柔道部の方と練習をさせていただきましたが、皆さん非常に強くて驚きました。しばらくして東京オリンピックの猪熊選手が足利市の造士館という柔道場に来たとき稽古をつけてもらいましたが、襟をもった瞬間に片手で遠くのほうに投げ飛ばされ驚いた覚えがあります。団体に出場している県警機動隊の方々には団体レベルの、オリンピックで金メダルをとるような選手にはオリンピックの優勝レベルの「練習方法」「やり方」「踏むべき手順」というものがあるようです。

(6)たいてい、毎年地区大会で勝つチームには勝つチームなりの名コーチや名監督の先生がいらっしや、県大会でいつも優勝決定戦近くに進んで行くチームには、県大会なりの名コーチや名監督の先生がいらっしやった覚えがあります。生徒は毎年変わっても、いつも地区大会や県大会で優勝を争う中に入っている先生がおられました。

私が中学時代に柔道を教えていただいたのは、椎名弘先生という先生です。椎名先生は、教える中学校で、地区大会はもとより県大会で優勝かそれに準ずるような成績を生徒にとらせてきました。足利市立山辺中学校、第三中学校、西中学校が何年か前まで順番のように柔道が強かったのは、椎名先生のお陰と私は思っております。

(7)もし、我々中学生が、自分で練習方法を考え、自分たちの考えた練習方法で練習をしていたら、失敗の連続で、県大会はもとより、地区大会の一回戦でも勝てなかったと思います。

(8)なぜ、椎名先生の教えを受けた中学校の柔道部は毎年県大会で優勝を争うまでになったか、中学校を卒業したあと、先生のお宅を訪問してお話をうかがってわかりました。先生は大学時代、宇都宮大学の柔道部のキャプテンをなさるほど柔道が強かったこと、中学校の先生になられてから人一倍柔道の専門家として柔道のコーチの勉強をなさり、文部省から派遣されてイギリスにまでお出かけになられたとのことでした。

当時の中学生である我々は全くそのようなことは知らずにいましたが、何と我々は、日本はもとより世界でも最高レベルの柔道のコーチを受けていたのでした。たとえ相手は中学生であっても、「練習の方法」「やり方」「踏むべき手順」というものは、日本柔道界の今までの歴史と近代体育理論を踏まえた「本格的」なものでありました。

3. おわりに—どこで、踏むべき手順を教わるか—

私の場合、たまたま「柔道」では足利市立山辺中学校という中学校で椎名弘先生という素晴らしい先生に出会いましたが、問題は、どこに行けば、自分の目標をかなえる、踏むべき手順を教えてくれる先生に出会えるかということです。

目標が学力の向上や一定の職業に就くことであれば、よくアンテナをはりめぐらせて、どこに行けばよいのかを考える必要があります。友達同士で話し合うことも大事ですが、「踏むべき手順は何か」「どこに行けばそれを教わることができるのか」などを話し合うレベルにまではなかなかいかないと考えます。先輩もよほどの人は別ですが年が単に何歳か上であるくらいの理由では、「踏むべき手順」について本格的な解答が出る可能性は低いと考えます。

学校や塾の先生、ものごとを広い立場・視野からたえず見ている人を捜し出し、その人から話をお聴きする以外にありません。どこに行けば自分の夢がかなうのか、たまには真剣に考えてみて下さい。

受験生の7月中の過ごし方を述べた開倫塾ニュース 1994年7月号の内容です。

夏休みに実力をつけるには - 受験生の効果的な夏休みの過ごし方・パート (7月中) -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

「手順を踏む」ことの大事さは、前回で幾分おわかりいただけたことと思いますので、今回は、その応用編として、夏に学力をどのように着実に上昇させるかを御説明いたします。開倫塾を始めて15年になろうとしています。強調することは15年前と全く変わりません。受験生を教えたことのある人なら誰でも知っていることですが、受験生が自分で思いつくのは本当に難しいことばかりです。是非、以下に述べることをできるだけその通りに実行してみてください。夏が終わるころには、実力が相当身に付いていると思います。

2. 夏休みの前日までの過ごし方

(1) 期末テストが終了したら、もう一度期末テストの問題の中で間違った問題をやり直すこと。業者テストの偏差値がなくなり内申書重視が学校で本格的に行われてはじめての学年であるため、開倫塾としても、昨年度初めから準備をした結果、本年1学期の中間・期末テストで100点に近い点数を塾生の皆さんに取ってもらうよう全力を傾けました。春期講習会、プレ定期テスト、直前2週間前の「的中予想問題」をはじめとする各種プリント類、実技4科の対策と、昨年までの定期テスト対策の10倍以上のエネルギーを使って先生方が準備した努力の成果が、本年の各種教材・テスト類です。開倫塾の先生の指導通り「手順を踏んだ」皆さんは、100点に限りなく近い点数を取ることができたと思います。

ただ、ここまで勉強しても、点数の取れなかった問題が何題かはあると思いますので、できなかった問題を確実にできるようにしておいていただきたいと思います。テストでできなかった問題は、テスト終了日から1～2日のうちに着実にやり直すこと。「間違いノート」に正確に記録しておくこと。開倫塾の各校舎では、テスト終了後にテスト問題の解説を行う予定ですので、しっかりとその説明を聴き、ノートにも取っておくこと。もし、わからない点があれば、学校の先生や塾の先生に遠慮なく質問し、わからないところをなくすこと。

(2) 開倫塾の「クリニックテスト」を十分準備して受験すること。開倫塾では、年に3回毎学期の最後の月

に実施する、その学期に学習した内容が十分理解できたかどうかを判別するための「クリニックテスト」を、開倫塾模試センターが各科の学年主任の先生方の力を結集して開発しました。

期末試験が終了したら、できなかったところをやり直すと同時に、「範囲表」に基づいて「クリニックテスト」の準備をして下さい。期末テストの勉強で頭がさえてわたっていますから、そのまま「クリニックテスト」の準備をすれば、1学期の学習範囲が着実に身に付きます。

* 開倫塾のすべてのテストには、教材名と学習範囲の具体的なページの入った範囲表が必ずついています。範囲表だけ出したのでは、何をどのように勉強したらよいかわからない人がいて困るのではないかと心配からです。また、範囲表に教材名とページまでついていれば、勉強時間が増え、学力も身に付くことが多いと考えているためです。チェック欄もついていますので、十分活用して下さい。

「クリニックテスト」には、詳細な解答・解説がついています。テストが終了したら1日1科目のペースで、1週間以内に、できなかったところやあやふやであったところを解答・解説でていねいに勉強して下さい。「間違いノート」もきちんと作成して下さい。このことにより、1学期の学習範囲を確実に身に付けて下さい。わからないところをできるだけ少なくして、夏休みに臨むこと。

(3) 開倫塾の夏期講習テキストを予習すること。本年は、夏期講習の前に夏期講習Ⅰ期のテキストを配付します。夏期講習の前にⅠ期のテキストを配付する「唯一の理由」は、どこまででもよいですから、できるだけテキストの予習をしてから夏期講習に臨んでもらいたいからです。「予習は何のためにするのか」といえば、「授業までに、わからないところを見つけるため」です。夏期講習までに、Ⅰ期のテキストをできるだけ予習して、講習に臨んで下さい。科目ごとにノートを用意して、ノートを取りながら予習をすることも当然です。テキストの中に書き込みをすることはできるだけ避けて下さい。

(4) 運動の部活動に入っている人は、夏休みの直前が最後の総仕上げです。夏休みの初日と次の日あたりにある地区大会で、よい成績を残さなければならないからです。地区大会で上位に入れば、県大会に行けます。私も、中学校のときは、陸上で毎年県大会に出場し、柔道では中3のときに県大会に出場させていただいたので、その忙しさ、大変さはよくわかります。最後の部活動となるわけですから、どうか悔いを残さないよう全力を傾けて下さい。

7月に入ってからできることといえば、

作戦を考え抜くこと

そのチームや自分自身の弱点とするところを徹底的に補強すること

集中力を養うこと

チーム全体の「和」を大切にすること

体調を整えること

などだと思います。試合までに与えられた時間は全員が同じであることを思い、短時間で効果の上がる練習を試合当日まで心掛けて下さい。

3. 夏休みがスタートしてからの過ごし方

(1) 開倫塾の夏期講習まで何日かありますので、それまでに、学校から出された宿題をできるだけたくさんやり終えて下さい。受験学年とはいえ、学校から夏休みの宿題が出されます。それが残っていると、気を入れて受験勉強ができません。それゆえ、講習までにできるだけ終了させることが大切です。

(2)7月中旬に渡された夏期講習 I 期用のテキストでまだ終了していないものがあれば、できるだけ終了させるように心掛けて下さい。

(3)毎日規則正しい生活をするように心掛けて下さい。夏休みになったら、「自分は今日から受験生だ」と自分自身に自己暗示をかけることが大事です。受験生であるなら、受験生らしい生活習慣を 1 日も早く身に付けることが必要です。そのために、「規則正しい生活」が大事です。

「規則正しい生活」とは、朝決まった時間に起床し、夜決まった時間に床に就くことを第一に意味します。最もよいのは、早起きをして、朝食前に一勉強すること。朝食後はサッと机に向かい正午を迎えること。昼食後は休みをとり、夕方まで開倫塾の講習を受けること。講習は夕食までに終了するので、家族で楽しく夕食をとり、フロに入ったり、TV を見たり、CD を聞いたり、家の手伝いをしたあと、寝る前に少し勉強して 11 時ごろには床に就くこと。自分は受験生であると自分自身に言いかけ自己暗示にかけたあとで、このような生活を夏休み中続ければ、夏休みが終わり 9 月、10 月になると驚くほど力がついていることがわかります。

(4)夏期講習 期の最終日にある「模擬試験」の内容は、 期 14 日間の内容にピタリと合っていますので、講習の内容を毎日のように復習して、覚えるべきところはその日のうちにすべて覚え込み、よい点が取れるように心掛けて下さい。開倫塾の授業カリキュラムは模試にもピタリと連動していますので、そのカリキュラム通りに勉強し、テストはそのたびごとに万全の準備をして受験、受験後に間違えたところを謙虚にやり直しさえすれば、必ず一定レベル以上の効果が上がります。

4. おわりに

「知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ」と、古くから受験界では言われています。この夏のがんばりが来春の合否を決定しますので、自分自身の未来は自分自身で切り開くのだと考え、どうかがんばって充実した夏を過ごしましょう。

受験生の効果的な夏休みの過ごし方を述べた開倫塾ニュース 1994 年 8 月号の内容です。

アゴを上げるな

- 受験生の効果的な夏休みの過ごし方・パート (8月中) -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)受験にとって、頭のよい・わるいは全く関係ありません。勉強をたくさんしたか・しないかだけで、合否が決まります。受験の日は毎年ほぼ同じで、試験までに与えられた時間は皆同じです。勉強時間をたくさん確保した人が合格をして、確保できなかった人が希望をかなえられない。ただそれだけのことです。自分は覚えが他の人より少しよくないと思う人は、さらに勉強時間を増やせばよいだけのことです。

(2)私どもは開倫塾を始めて 15 年目になろうとしています。生徒を自分たちの塾で教えるようになって以来、毎年口をすっぱくして訴え続けているのが、夏休みの重要性です。9 月に入ると、模擬試験、実用英語検定試験、文化祭、運動会、中間試験、期末試験、三者面談、各種委員会や発表会と試験や行事が目

白押しなことは、今年も例年と変わりないと思われます。一人ひとりの生徒について様々なデータが出る、本命はどこの高校で、どこの高校をすべり止めのために受験しなければならないかを真剣に考えなければならないのが11月までです。12月に入ると、成績の中以上の生徒のほぼ80%が受験する「私立高校学業特待試験」が、中旬から一斉に行われます。どうしようどうしようと言っている間に、あっという間に来てしまうのが、12月中旬以降の「私立高校学業特待試験」です。

(3)この合否が、1月の私立高校入試や、2月の県立高校推薦入試、3月の県立高校入試に大きく影響しますので、「私立高校学特入試」は本当に大事です。「はじめに」十分認識しておいていただきたいのは、8月がスタートした今、私立学特入試までもう4か月半しかないということです。9月に入ると様々な行事や試験が待っているため、落ち着いて勉強することが大変な人が多いということです。「夏休みは入試の天王山。夏を制した者が入試を制する」ということばは、高校入試にもそのままあてはまります。時間に余裕のある8月こそ、本当に全力を傾けて1日中勉強をすべきであります。

(4)ではどのように勉強したらよいかを、次の章で述べます。(どのような勉強方法をとるかは本人の自由ですが、私たちは15年間受験生を見させていただき、次の方法がベストであると考えましたので、開倫塾のカリキュラムとして組ませていただいております。)

2. 8月の勉強方法

(1)8月9日の模試日まで

開倫塾の夏期講習テキストをすみからすみまで暗記して下さい。また、できない問題は全部できるようにして下さい。テキストに出てくる単語や語句で意味不明なものは調べ尽くして下さい。書けなそうな漢字や語句は、完全に書けるようにして下さい。わからない項目や問題は教科書や参考書で調べ、それでもわからなければ塾の先生に遠慮なく質問して下さい。そのように熱心に勉強して、8月9日の開倫塾模試では各科目とも100点満点を取って下さい。

8月9日の模試は、講習を受講した受験生の皆さんに十分な勉強時間を確保してもらうために実施するものでもあります。テストの範囲は、夏期講習I期の内容から出るように各科の作問担当の先生が作って下さっていますので、どうか思いきり勉強して下さい。

(2)8月11日～8月15日まで

開倫塾のほぼ半数の校舎で、朝9時から夕方6時まで、休み時間を除いて8時間の間1科目を集中的に教える「単科集中ゼミ」が開かれます。首都圏の学習塾では4泊5日で受験生向けの合宿が開催されますが、この5日間はそれに似たようなものです。

8月分の授業はお盆すぎから始まりますので、せっかく8月9日まで熱心に勉強したのに、お盆休みが入ってしまうと中ダルミしてしまい、せっかく身に付いた勉強の習慣がとれてしまいがちです。そこで、ほぼ全員の受験生がゆっくり遊んでいるお盆の5日間を利用して、1日中勉強、それも1科目にしぼり込んだ勉強をする機会を設けました。

昨年度から「正月特訓」もスタートし、同じように1日8時間1科目にしぼり込んで勉強をしていただきましたところ、参加者と御父母の皆様から大好評で、「目からウロコが落ちた。なぜ夏からやってくれなかったのか」とのお叱りまでいただきましたので、本年から企画しました。(校舎によっては実施していないところもありますが、近くの校舎で受けられますから、是非受講して下さい。とにかく、みんなが遊んでいるお盆中、朝から夕方までみっちり1日中勉強するのですから、これだけでも差がつきます。)

(3)8月17日以降

開倫塾の8月分授業の予習と復習を徹底的に行ってください。中3の2学期の予習が勉強の内容なので、

よい2学期の予習ができます。もちろん、中1や中2、中3の1学期までの復習もしますから、少しでも不確かなところがあれば、中学校や開倫塾で使っているテキストや参考書、問題集で復習をして下さい。学校の宿題がまだ残っているようなら、早目に終わらせておくことも大事です。

(4)東京ディズニーランドツアー(8月24日)

受験生でも、たまには息抜きをしないとストレスがたまってしまい気の毒であるとの考えから、夏休みのお楽しみイベントとして、東京ディズニーランドバスツアーを3年前から実施しています。十分リラックスして楽しみ、夏休み最後の勉強のエネルギーにして下さい。

3.おわりに

受験生は、夏休みの1日を次のように過ごすことにより、大量の勉強時間を確保すべきであると考えます。

(1)午前6時～8時(2時間)

午前6時少し前に起き、朝の勉強をして下さい。非常にすがすがしい気分で、グングン勉強がはかどります。

(2)午前8時30分～午後0時30分(4時間)

NHKの「ピア!」を見ながら楽しく朝食をとったあと、8時30分になったらサッと机に向かうのが最大のコツです。午前中の涼しいうちに、部屋の中に少し弱めにエアコンをかけ、4時間ミッチリ勉強すること。

(3)午後8時～10時(2時間)

開倫塾の講習は夕方6時すぎに終わりますので、帰宅後シャワーをあげ、楽しく夕食をとってリラックスし、8時になったらサッと机に向かい1日の最後の勉強を10時までして、眠りに就くこと。

(4)これに加えて、開倫塾では、午後2時すぎから6時すぎまでの4時間内外で夏期講習や8月分授業を実施しますので、合計すると12時間の勉強ができます。

(5)本当を言うと、受験勉強は、頭のよしあしでもなければ、覚えがよいかどうかでもなく、長時間勉強できる「気力」と「体力」が最も大事なのです。競争相手つまり敵は、他の受験生ではなく、自分自身の中にあります。志を高く持ち、この高校に絶対入りたいのだという意思を明確にした上で、何が何でも合格してやるのだと心を強く持ち、長時間の学習を自分自身に課して下さい。長時間の勉強ができれば、今までの成績など全く関係なく、誰でも必ず希望の高校に合格できます。成績も必ず上がります。

(6)開倫塾でも全力を傾け、やれることはすべてやりますので、受験生の皆さんも全力を傾け、とりあえずアゴを上げることなく「長時間学習」を実施して下さい。

御注意

ここに書かれてある日付は1994年の8月のものです。2009年のものではありません。その点を御了承下さいね。

夏休みの効果的な過ごし方（その1）

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに - 夏休みは入試の天王山 -

期末試験の結果はどうでしたか。よく教科書を勉強したあとに「的中問題集」に徹底的に取り組んだ科目は、限りなく 100 点に近いよい点が取れ、教科書を十分に学習せず、「的中問題集」にも十分に取組みなかった科目は、思ったほどよい成績が取れなかったのではないかと推測します。教科書や問題集と十分に取組みればよい成績が取れて、取組みが不十分ならよい成績が取れない。この当たり前のことを十分理解することが大切です。

私立中学入試・高校入試・大学入試についても全く同じことが言えます。よく準備をした人は合格し、準備を怠けた人は合格することが難しい。そこで、今回は、受験生の夏休みの過ごし方を、特に高校入試を控えた中学 3 年生の皆さんの夏休みの過ごし方を中心にお話いたします。

2. 知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ

(1) 夏休みまでの過ごし方

部活動の地区大会の準備も大変でしょうが、1 科目でもよいから夏休みまでに 1 学期の復習を終了しておく、非常に有利です。また、夏期講習のテキストは、期末試験が終了したその日から、どんどん先へ先へと予習をしてしまってください。

期末試験の勉強で頭がフル回転しているときに、好きな科目だけでもよいから夏期講習のテキストを 1 ~ 2 冊やり終えてしまうことは、さらにその科目を好きにさせ、実力の養成にも役に立ちます。

* 期末試験終了後にボーッとして何もしないのでは、せっかくやってきた学習に急ブレーキをかけるようで本当にもったいないと思います。頭がフル回転している間に、好きな科目だけでもよいから、夏期講習のテキストを最後まで予習することをお勧めします。

* テキストを予習する場合に大切なことは、解答をテキストに書き込まないということです。必ずノートを用意して、テキストのページや項目、問題番号等もキチンと書いた上で解答をお書き下さい。数学等の科目は、問題もキチンと書き写すことが大切です。

(2) 夏期講習中の過ごし方

規則正しい生活が最も大切です。朝は決まった時間に起床し、夜は決まった時間に床に就くこと。朝食は必ずとること。パンやご飯、コーン・フレークなどの炭水化物を朝食でとらないと、頭が十分働きません。牛乳や小魚などをできるだけ飲んだり、食べたりしてカルシウムをとることも忘れてはなりません。糖分の多いコーラや甘いジュースを飲むなら、野菜ジュースを飲むほうが身体のためによいと思われます。目や鼻や耳、歯が悪ければ勉強になりませんから、夏休みの間は毎日でも専門のお医者さんに通い徹底的に直してしまいましょう。

講習中は、午前中は静かに家で講習のテキストを勉強して下さい。前日よくできなかったところをもう一度勉強し直すことも大切です。特に国語や英語、社会などで書けそうな語句があったら、書く練習を済

ませるだけでも相当力がつきます。数学や理科はできなかった問題をもう一回やり直し、できるまでしておくことがよい復習になります。

復習が終了したら、予習の終わっていない科目をノートに予習することをお勧めします。全科目のテキストが終了するまで、予習を行って下さい。そして、よくわからないところが出てきたら、自分なりの「よくわからないマーク」を考え、印をつけておくことが大切です。時間があったら、「わからないマーク」のところだけ集中的に勉強し、それでもよくわからなかったら、先生にお聞きして下さい。予習は、わからないところを発見するためにあります。

(3)テスト

各学年とも、講習の最終日にはコンピュータで処理するテストがあります。テストの範囲は講習で学習した範囲となっていますので、どうかテキストをもう一回十分に勉強していただき、テストでよい点数を取っていただきたいと思います。

*「開倫塾のテスト」は、一通り勉強したことをテストでよい点数を取ることを目標にして、もう一度今度は自分で勉強することにより「あやふやであった知識」を「確かなもの」にまで高めるために実施するものです。「事前の予習」「授業」「復習」「テストでよい点を取るための勉強」「テスト」。このシステムで勉強していただければ必ず実力が身に付きますので、是非がんばって、1科目でもよいですから徹底的にやり抜いて下さい。

3. おわりに

期末試験終了直後から、8月初旬の「テスト」までの過ごし方を説明させていただきましたが、いかがでしょうか。あまり無理をすることはありませんが、やりたい科目・好きな科目だけでもよいから以上のような勉強方法をとれば、必ずよい成果が生まれます。人間に頭がよい・余りよくないということはありません。よい方法を見つけて、よく勉強したかどうかだけです。是非1日も早く自分なりの勉強方法を見つけ出し、よく勉強をなさり、自分で納得のいく結果を一定の期間内に出されることを希望します。この文章や開倫塾が、そのお役に立てれば幸せです。

受験生の夏休みの効果的な過ごし方を述べた開倫塾ニュース 1997年8月号の内容です。

夏休みの効果的な過ごし方(その2)

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) 中学3年生にとり、高校入試までもう120日余りとなりました。12月の初旬から中旬にかけて私立高校学業特待試験が行われるからです。その手前の9月～10月からは毎月のように学文館や下野新聞社の模擬試験があったり、10月には実用英語検定試験や各中学校の中間試験が行われ、11月下旬から12月初めには期末試験が実施されます。開倫塾の定評ある公開模試や私立学業特待模試も、各々10月と11月に実施されます。以前と比べ幾分少なくなったとはいえ、2学期は試験ばかりなので、9月以降は全手が抜けぬ日々が12月の私立高校学業特待試験まで続きます。

(2) 8月という月は、最も忙しいと言われる2学期の準備のためであると自覚することが大切かと思えます。

では、8月の勉強をどのようにしたらよいか。今回は、前回に引き続き夏休みの後半の勉強方法についてお話いたします。

2. 受験には頭がよい・よくないは全く関係ない。気力を充実させ、体力の限り勉強するかどうかが大事。

(1) お盆中の過ごし方

よく考えれば、みんなが遊んでいるお盆中に1日中勉強すれば、遊びほうけている人と比べて実力が身に付くことはおわかりになると思う。片方はお盆中1日中遊びほうけ、片方はお盆中1日中勉強すればどうなるか。1日中勉強した人がどんどん力をつけることは当然であります。力をつけたい科目だけでもよいからお盆特訓に参加することをお勧めします。テキストの予習ができれば最高。もし予習ができなくても、授業後十分に復習をし、不確かであったところを確かにするだけで随分と実力が身に付きます。

(2) お盆後1週間の過ごし方

各教科とも中学3年生で最も難しいと言われている2学期の内容を予習することができれば、非常にスムーズに2学期に入れます。お盆後行われる開倫塾の8月分授業は、中3の1学期までの復習も入れながら2学期の予習を中心に行いますので、好きな科目だけでもよいからキチンと予習や復習を実行すると、中学3年間で最も難しいと言われる2学期の内容が驚くほど楽に頭に入ります。どんなに難しくなってもあわてません。どうか歯をくいしばって、毎日の授業の予習と復習を1科目だけでもよいですから確実に行って下さい。

(3) 夏休みの最終週の過ごし方

中学3年生で、実用英語検定の4級または3級に合格していない人は、10月の英検合格を目指して8月最後の週から勉強を開始して下さい。10月に入るとテストラッシュで、とても英検の勉強をしている余裕などありません。8月最終週から本格的な英検のための学習をスタートさせ、9月下旬までに完成させてしまうことが最も大事です。英検の3級・4級合格を目指して8月下旬から9月下旬までの40日間弱勉強することは、英検合格に直結するだけでなく、ここで英語の集中学習を済ませられますから、飛躍的に英語の実力を高めます。中間テストや期末テストだけでなくいろいろな模試、ひいては私立学特試験や県立高校入試にまでよい影響を及ぼします。中3のうちに4級、4級に合格している方は3級に合格するよう、8月下旬から9月末日まで全力を傾けて下さい。

3. おわりに

(1) 10月以降は本当に「超多忙」な日々が続きます。9月は、英検に加え理科や社会の勉強も確実に終了させなければなりません。ただ、あせることはないのです。要は希望する学校の入学試験に合格すればよいだけのことですから、好きな科目からあせることなく集中的に学習を積み重ね、得意な科目にしていくことが第一。好きな科目をたくさん勉強して得意な科目にすることが、この時期は大切です。

(2) 開倫塾の先生方は一所懸命に皆さんをお教えします。皆さんも、どうか1日も早く自分自身の勉強の方法を見つけ出し、一所懸命勉強なさって下さい。

(3) 「知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ。」受験には、頭がよい・あまりよくないは全く関係ありません。やったかやらなかったか、ただそれだけです。

おまけとして、開倫塾ニュース 1999 年 8 月号で述べた「小旅行の勧め」をお読み下さい。
ただし、出かけていいのは、保護者の方とよく相談し、許可をいただいてからに限ります。

夏の終わりに小さな旅に出かけよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)ものごとを考えるときに、いつもと少し違う場所に自分自身を置いて考えると、自分でもハッと思うくらいざん新な考えを思いつくことがある。

(2)せっかくの夏休みなので、夏の終わりの1日を使って小さな旅に出かけることをお勧めする。

(3)今回は、小さな旅の方法を考える。

2. 目的を持って出かけよう

(1)東京の繁華街に遊びに行ったり、アイドルのコンサートにお化粧をして出かけることは、お勧めしない。貴重な人生の1日を過ごすに値するような目標を持って旅に出かけてほしい。

(2)小さな旅の目的や日程が決まったら、保護者の方に十分説明して、許可をいただくこと。許可してもらえない場合は、絶対に行かないこと。どうしても行きたければ、20歳を過ぎてから自分の責任で行くこと。それまで、がまんすること。

(3)日程を詳細に検討してできるだけ無理はしないこと。危険なところには絶対に近寄らないこと。時々、保護者に電話連絡を入れること。

(4)人と会うときは、礼を尽くすこと。時間をつくって会っていただいた方には、必ず礼状を出すこと。友だちになった人にも、時々手紙を出すと友情が深まる。

(5)大事なことは、メモしたり、写真に撮らせていただくこと。帰宅後、十分整理しておくこと。

3. おわりに

(1)小さなノートを一つ用意して「私の旅日記」を簡単な形でもよいから記録し続けると、一生の宝物となる。

(2)保護者の許可を得られる範囲内で、折にふれ「小さな旅」に出かけることも大事な勉強の一つ。無理のない範囲でチャレンジしてみよう。

(3)小さな本を一冊持っていくと、待合い時間を有効に過ごせます。

学習塾、予備校、私立学校の経営者のための月刊雑誌、月刊「私塾界」2009年8月号「林明夫の歩きながら考える」の原稿です。御参考までにお読み下さい。

ブレイン・ドレイン(頭脳流出)からブレイン・ゲイン(頭脳獲得)への脱却を

- 東南アジア版ダボス会議で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：ソウルには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)2009年6月18日、19日に、ソウルのグランド・ハイアットホテルで開かれた World Economic Forum(世界経済会議、通称ダボス会議)主催の東南アジアに関する国際会議(World Economic Forum on South East Asia)に参加するためです。

この会議は、東京、ソウル、シンガポール、マレーシア、香港などが持ち回りで毎年1回開催されている経済の成長に関する会議です。私は、2001年以来毎年参加。今回で9回目でした。

Q：今年の会議の特徴は何ですか。

A：以前は多かった日本やアメリカ、ヨーロッパからの参加者が少なくなり、中国やインド、ロシア、中東、アフリカからの参加者が増えてきたことが第一。世界経済危機はあったものの、日米欧ほど強い影響を受けなかった新興諸国の台頭が目立ちました。

2日間にわたり早朝から夜まで様々なテーマの会議が開かれていましたが、どこでも女性の発言がきわだったことが第二。

ベトナムと韓国の代表の英語が以前と比べ格段にうまくなったことが第三。EUはヨーロッパの市場統合の絶対条件として、また、ベトナムや韓国をはじめ多くの国々では、グローバル化に対応するための能力強化の絶対条件として、国を挙げて英語教育を展開している結果と思います。

Q：林さんが一番気になったテーマは何ですか。

A：Brain Gain(ブレイン・ゲイン)、つまり「頭脳獲得」です。アジアの国々は、今まで「Brain Drain(ブレイン・ドレイン)」、つまり「頭脳流出」に苦しんでおりました。初等、中等教育で優秀な人材を育成しても、自国の産業や自国の大学に魅力がないために、優秀な人材ほど欧米の企業や大学、研究機関に流出してしまい、国の成長が果たせず、貧困から脱却できないという問題がありました。

シンガポールは、国家戦略として、ブレイン・ゲインを行っています。優秀な知識労働者を集め、人口を2倍にするために世界中にスカウトを派遣。バイオ技術の専門家を集め、Biopolis(バイオポリス)という複合施設を展開しているほどです。

中国政府やインド政府は、欧米モデルの起業家精神を身につけた海外留学者の帰還を促進するために、起業支援や税制優遇措置を実施。「頭脳流出」(ブレイン・ドレイン)から「頭脳獲得」(ブレイン・ゲイン)への脱却を国家戦略として図っています。

Q：韓国や日本はどうなっているのですか。

A：先進諸国では最も遅れているのが、単一民族、同種国家、古い因襲から脱却できない韓国と日本であると言われていました。

高収入の、極めて優秀な海外在住の人材を受け入れない文化が、両国にはあるようです。ファミリー・フレンドリーではない、つまり家族にやさしくない、また、高学力女性に十分な対応ができない男性中心の文

化が、内向きの両国にはあるとの批判がありました。このような遅れた傾向が、長引く不況と最近の大不況を日本では激化させているとも考えられます。

Q：では、どうしたらよいのでしょうか。

A：人口減少で悩み苦しむ日本は、2050年に人口90億人と予想され人口爆発で悩む世界に、もっと目を向けるべきと考えます。1年間に60万人の移民、50年間で3000万人の移民を日本は受け入れ、人口減少をストップさせることを、他の国々がブレイン・ゲインを考えているのと同じように、国家戦略として考えるべきです。

日本に帰化したい人々に日本のもつDNAを受け継いでもらうことも、日本という国家を維持し、国民の繁栄を確保するために必要と考えます。日本が老人中心の国家になったのでは、若い人々の負担があまりにも重く、また、世界への貢献も果たせません。

世界の人口が、これから半世紀で1.5倍になるのなら、日本も1億8千万人の人口の国家を目指し、世界の発展に寄与すべきと私は考えます(その時は、何千万人かの日本人は海外で生活・活動する)。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお考えいただきたいことは何ですか。

A：英語をはじめ語学の教育だけは、「ヨーロッパの言語教育共通参照枠(Common Framework For Language Studies in Europe)」を参考にして、徹底的に行うことをお考え下さい。

外国人への日本語教育を生活レベル、学校教育を受けるレベル、上級学校への受験レベル、資格試験に合格できるレベルと、4つのレベルに分け、徹底的に行っていただきたい。

毎年60万人ずつ海外の人材を受け入れるようになった場合には、最初に訪れるのは皆様の教育施設ですので、万全の受け入れ準備をお考えいただきたいと心から希望いたします。

Q：最後に一言どうぞ。

A：大不況を嘆き、悲しみ、お金をバラまきさえすればよいと考えている国ばかりだと思ったら大間違いです。本気でこの国を貧困から脱却させよう、国民の能力強化を果たし、国民の生活を向上させようと考えている国もたくさんあります。日本人は、もっと真剣になって国の将来、国民の将来のことを考え、したたかに国家経営を考えるべきです。

- 2009年6月22日記 -

林 明夫・紹介

- ・開倫塾 塾長
- ・慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- ・世界銀行研究所、ハーバード大学行政大学院国際開発研究所(HIID)、国立シンガポール大学行政大学院で各々、民営化短期集中コース修了。
- ・学校法人 有朋学園 東日本高等学院、理事長(福島市)
- ・栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑、理事(足利市)
- ・社団法人経済同友会(東京) 幹事
- ・社団法人 栃木県経済同友会、幹事
- ・群馬経済同友会、会員
- ・茨城経営者協会、会員
- ・宇都宮大学大学院工学研究科、客員教授
- ・マニー株式会社(ジャスダック・Jストック、手術用縫合針製造)社外取締役

読売新聞朝刊栃木版コラム「とちぎ寸言」2009年4月9日刊のために書いた原稿です。よろしかったらお読み下さい。

新シンクタンクに期待する

開倫塾

塾長 林 明夫

栃木県の成長に今一番必要なものは何か。「シンクタンク」、つまり地域や経済、企業の成長を戦略的に政策として練り上げる「研究所」だ。

かつて、栃木県には「とちぎ総合研究機構」という全国でも有数の地域に根ざしたシンクタンクがあった。県の経済の活性化と県民生活の向上のために、県や市町村、経済同友会などの経済団体、企業などから委託を受け、また、独自にプロジェクトを組み、基礎研究を積み重ねた。栃木県の産業基盤を政策面で下支えした功績は極めて大きい。

このような中で、足利銀行が4月からシンクタンクをスタートすることは地域経済発展の上で有意義と考える。

栃木県経済をリードし続けた輸出主導型の製造業が危機的な状況に陥っている大不況の今こそ、産業界、栃木県、大学の三者と、マスコミ、そして何よりも栃木県に生活し、働くすべての人々が全面協力をして、新「シンクタンク」を支援すべきと考える。

栃木県の潜在能力、可能性は限りなく大きい。しかし、いつになっても顕在化しない、形となって表れない。このもどかしさ、歯がゆさ、閉塞感を感じているのは私だけではないと思う。人材育成のための研修、企業活性化のための経営サポート、観光振興等の活動が軌道に乗ったら、大不況の今だからこそその本格的な調査・研究、将来を見据えた政策提言を期待したい。「道州制」「地方行財政改革」「自治体レベルの規制改革」「PPP(官民連携)」「高等教育機関の地域の発展における役割」「サービス産業の生産性向上」「農業への株式会社参入」「FTA、EPA(経済連携協定)締結後の県経済のあり方」「自動車産業の進化」「航空宇宙産業の振興」「森林政策 路網整備」「学校教育制度改革」「外国人労働者及び移民受け入れ」「外国資本・企業の受け入れ促進」「観光政策」、そして何よりも「不況対策の膨大な予算の使い途について」などなど。

「田舎の3年、京の3日」ということばがある。どんなに「一所懸命」に、熱心に、まじめにものごとに取り組んでも、マンネリに陥ったり、越えられない壁が現れることがある。そのようなときには、知的刺激にあふれる自分にとっての「京」に出掛け自らの力でリズムを取り戻す勇気、チャレンジ精神が大切だ。新しい「シンクタンク」が、栃木県における「京」の役割を果たすことを期待したい。

以上